

◆短期研修ブログ クリック→[ブログ](#)

事前研修第 2 回目 パースの街についてと役立ち英語表現 2019-07-10

今年の短期海外研修旅行に向けて、全 5 回の事前研修が行われます。



第 2 回目 の今日はパース出身の ALT、マット先生からパースの地理、街の様子、気候、人々、食事やおすすめのお土産まで、画像をみながら、いろいろな情報を教えていただきました。

わくわく期待とちよっぴり不安の入り混じった表情で先生の話聞く参加者たち。

マット先生のプレゼンの後は、この研修用に作成した useful expressions のプリントでさまざまなシーンで使う英語表現を練習し、去年の参加者が作ってくれた、語彙やスラング一覧のプリントで、オーストラリア英語独特の英語表現を学びました。学びの多い事前研修となりました。

事前研修第 4 回目 日本文化を学ぶ 2019-07-17



事前研修 4 回目は、「日本文化の心を学ぶ」というテーマで、所作と茶道を、茶道部の協力を得ながら、行われました。

お辞儀の仕方に 3 種類あり、それぞれ正しい作法や使う場面が決まっていることや、歩き方、おもてなしの心について教えていただき、お点前のルールを学びました。茶せんを持つのも初めてで、抹茶を点てるのにも苦戦している人、多数でした。お菓子のフレーバーでは身近な抹茶ですが、抹茶を点ていただく機会はなかなかありません。和の心を感じるひと時になりました。



7 月 19 日 結団式 2019-07-19



保護者の方もご参加いただき、結団式が行われました。校長先生からの激励のお言葉をいただいた後、旅行代理店のご担当者様からの説明、そしてホストファミリーの発表。生徒たちには帰宅後、ホストファミリーへファーストコンタクトメールを送ることが課せられました。体調をしっかり整えて、たくさんのことを学び取って、大きく成長して帰ってきてほしいです。

出発～シンガポール空港に到着 2019-07-30



いよいよ出発当日を迎えました。この日を万全の状態を迎えられるよう、いろいろ我慢もして、体調を整えて臨んだことがわかりました。(引率者もです！) お見送りの保護者の方々、先生方、ありがとうございました。

日本を 23:25 に出発し、シンガポール航空にて約 6 時間のフライト。

日本時間の 4:00 に機内食(朝食)を食べ予定より少し早く乗り継ぎ地であるシンガポール空港に 5:00(現地時間 4:00)過ぎに到着しました。

まずは何と言っても wifi 接続ですね。皆、順番に接続設定。この後、現地時刻 7:40 発の飛行機に乗り継ぎ、目的地のパーズに向かいます。飛行機内ではあまりゆっくり眠れていません。皆元気ですが、少し眠そうです。



【DAY1】パーズ到着～入国完了～John Curtin College of Artsへ 2019-07-30



約 5 時間のフライト後、パーズに到着！

無事に入国完了しました。パーズの空は広くて、冬ですが、ポカポカお天気が気持ちいいです。

バスでこれから学校に向かいます。

これから 2 週間お世話になる John Curtin College of Arts

に 35 分程度で到着。演劇、ダンス、音楽、バレエ、ミュージカルなど特別プログラムがあり、芸術分野における施設が充実している学校です。



シアター(劇場)でオリエンテーションを受けます。

校長先生(写真左)と教頭先生(右)からも歓迎のお言葉。何と、教頭先生は神戸鈴蘭台高校を訪問したことがあるそうです。



その後、ホストファミリーやバディのお迎えでそれぞれのホームステイ先に帰って行きました。緊張しながらも、一生懸命英語でコミュニケーションとっている姿をうれしく見守りました。

どのホストファミリーも素敵なご家族で、日本に興味があり、もうすぐ日本に旅行に行く、というご家庭も複数。



【DAY2】登校～初めての授業 2019-07-31



一晩明けて、バディとの登校。

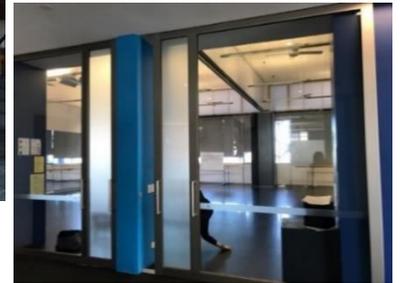
学校までは、徒歩、車での送迎、または、電車に乗りフリーマントル駅で下車し、駅からバス、とそれぞれです。

501 か 502 のバスに乗ります。フリーマントルの駅で早速、バスを待っている鈴高生を見つけました。

おや、ここにも。



1 時間目は、Griffiths 教頭先生による校内ツアー。



バレーのスタジオや
広大な運動場では、サッカーの授業。
校内の土足はもちろんのこと、体育館も土足とはびつくり。



Student Services は神鈴
高の教育相談室のような
役目。カウンセラーや心
理学者も常駐していま
す。奥の窓は遅刻者用の
窓口。タッチパネルで入
室許可証を発券。



劇場横には衣装室や小道具もずらり。



一通り施設の見学をし、次は ART の
授業へ

【DAY2】ART の授業 2019-07-31

2 限目は ART。美術教室へ。



美術の Kirsty Sadler 先生がオーストリア特有の植物を見せながら説明。

バンクシア(Banksia)山火事(bush fire)に適応した植物で、果実は火にあぶられて初めて種子を散らすことができる植物です。



ビン洗いのブラシのような赤い花、ボトルブラシ(bottlebrushes)



私が気に入ったのは右のハーデンベルギア(Hardenbergia)



ワトル(Wattle)はオーストラリアの国花、日本ではミモザと呼ばれている木ですね。

自分で選んだ植物を色鉛筆で写生。絵を描きながら穏やかなひと時を。緊張続きだったみんなにヒーリング効果が。



隣の部屋で授業をしていた7年生たちが「見学してもいい？」とやってきました。

その後、神鈴高生たちも隣へ。さすが ART 専攻の生徒たち。デッサンもプロ並みです。この後、実物のレプリカを作成するそうです。



日本が好きという先生に理由を聞いてみると、「あらゆるモノ一つ一つを尊ぶ精神」「東京に行った時に、橋の修復をするのに、人が手で磨き上げていたのを見かけた。オーストラリアではありえない。」と。美術の先生らしい観点だと思いました。



素敵なカードが仕上がりました。

ART の後は 20 分間のリセス(recess)です。バディが教室まで迎えに来てくれました。

【DAY2】休み時間リセス(recess) 2019-07-31

授業は、月曜から水曜日が6時間(午前中4時間、午後2時間)授業。木曜、金曜は5時間です。

2 限と 3 限目の間にリセスと呼ばれる 20 分の休憩時間があります。それ以外は移動のみで休憩時間はありません。そのため、2限目は 9:32 ~ 4 限は 11:47~と、中途半端な時間スタートです。

学校にはおやつとランチの 2 食を持参しています。おやつには果物やビスケットが多いです。ここは、売店(canteen)。リセスに購入する生徒も。





←メニュー

学校があるフリーマントルは海に近い港街なので、校内のあちこちでカモメがたくさん。



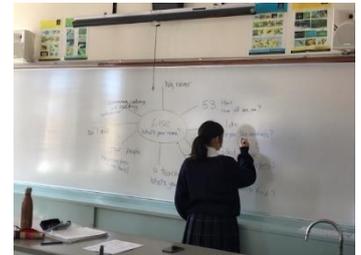
この鳥もちょこちょこ見かけます。

【DAY2】ESL 英語の授業 2019-07-31



recess の後は神鈴高生専用の ESL(English as a Second Language 第二外国語としての英語)の授業。これから毎日午前中は ESL の授業です。リース(Lise)先生は、ESL の資格を持っており、大学でも教えておられるそうです。

そして、なんと昨年の参加者(12 回生)のホストマザーでも



ありました！いろいろなつながりが嬉しいです。リース先生の授業でのルールは 2つ。

1. Speak English. 日本語なし
2. Don't be shy. 恥ずかしがらないで

ホームステイ先での会話の切り出し方、さまざまなシチュエーション別表現。テンポよくどんどん進みます。

←英文の情報を読み取り覚える生徒。

頑張って読んで覚えて、、、ペアがこの後、質問をして情報を聞き出します。わからなかったら再びここへ戻ってきます。



教頭先生が様子を見にちょこちょこ顔を出しておしゃべりして帰っていかれます。

「日本ではサッカーする?」と。

(元は体育の先生でした)

優勝したこのペアにリース先生からプレゼント

「右と左どっちがいい?」「こっち」



お昼休みにはバディーとランチ。ランチタイムの校内放送で教頭先生からのご挨拶があり、神鈴高生についての紹介と歓迎の言葉が述べられました。学校全体で歓迎してくれている雰囲気が嬉しいです。

【DAY3】教室で過ごせるのは授業時間のみ 2019-08-01

登校第 3 日目。バディと一緒に続々と生徒たちが登校します。

神鈴高生に「こんにちは。私は日本語がしゃべれます」とか「おはようございます」と英語訛りの日本語で喋りかけてくる生徒もいて、皆フレンドリーです。

校内を見学している間も手を振ってくれる生徒がいました。(そして照れながら小さく手を振って返すうちの生徒たち、イイね！)



生徒は授業開始の「ポーッ」という音のサイレンが鳴るまで中庭など教室の外でおしゃべりをして待ちます。

サイレンが鳴るまで、生徒は教室に入れませんし、授業後残ることもできません。屋外で人と関わることで socialize(社会性)のスキルを養う意味合いもあるようです。

リセスもランチタイムも屋外で過ごさないといけないので、立ったままランチを食べたり、地面に座って食べるのは珍しくありません。

お昼休みには、中庭で Music 専攻生のコンサートが開かれていました。昨夜に引き続き今夜も、8 年生～10 年生が参加のミュージカルも上演されます。何と、年間 100 回ほどのショーがあるそうです。

ショーが始まる午後 7 時には、すっかり日が暮れて辺りは真っ暗です。チケットは有料、座席も指定、インターバルのドリンクコーナーもある本格的なミュージカルでした。内容も talented で gifted(才能のある)な生徒たち、という言葉を実感した優れたものでした。



【DAY3】ESL 英語の授業 speaking 漬け 2019-08-01

さて、午前中は 55 分×4時間のひたすら Speaking の授業。テンポよく、どんどん当てられるので、全く気が抜けない。嫌いな物を出された、お腹いっぱい、もっと食べたい、買いたい T シャツが小さい、



そんな時どう言うか、いろんなシチュエーションが与えられ、それにぱっぱと英語で反応しなくてははいけません。発音も声の大きさも容赦なく直されます。

「発音も気にしなさい。チョコ・レート(3 拍子)じゃなくて、チョコレート(2 拍子)よ。」

“Bigger voice! I can't hear you!” (もっと大きな声で！聞こえない！)

ない！)

間違ったら正しい表現を、リピートで先生の後を何度も何度も繰り返す。

cookie と言った生徒には、「それはアメリカ英語ね、オーストラリア英語では biscuits よ。」

Why? Why not? と質問をして、答えを聞くだけでなく、話を広げて追加情報を聞く練習。



4時間目のジェニファー先生の授業では、全員が日本とオーストラリアを比べて 1 人ずつが意見を言う練習。

生徒はこんな文を作っていました。

I think the sky is so beautiful compared to Japan.

I think drinks here are crazy expensive.

それに対して、Yes, I agree. などと各々が反応する練習。

つい言葉にせずになづくだけだと、「ちゃんと全員が言葉にして反応して！」と手厳しい。

て！」と手厳しい。

そして、My first thought was ... (最初はこう思ってたけど) や I'm surprised that という表現を学び、

I'm surprised this sunset is so beautiful. などの文を作っていました。

事前にプログラムを組むにあたって、「自分の意見の述べ方や、意見を論理的な理由とともに述べる練習をさせて欲しい」という要望を出していたのですが、満足のいくトレーニングになっていました。

【DAY4】パースの街に遠足 2019-08-03

今日は1日、お楽しみのパースの街に遠足。天気予報では雨かも、ということでしたが、日差しが強すぎるほどの快晴(今季節は冬です)。海に近いフリーマントルから内陸側のパースへ。学校からバスに乗り→フリーマントル駅→電車でパース駅へ約30分の旅

①ロンドンコート



「映え」するスポットにみんなのテンションがアップ。お土産屋さんの店頭で。



バスに乗り、
② King ' s Park and



botanical garden へ

バスの窓から美しい景色が、そして降り立ったら、、、絶景スポット！ やばい、やばいとの声。東京ディズニーランドの5倍の広さと言われる巨大な公園。海のように見えるのはスワン川。左手にパースの高層ビル群。



戦没者慰霊碑

たくさんの方のお名前が刻まれています。第二次大戦時は日本軍の侵攻で犠牲者が出ています。

永遠の火「ずっと忘れない」

鎮魂と平和維持への強い気持ちを表すため



に、常時火が灯されています。

植物園では、オーストラリア特有の植物がたくさん。鳥のさえずりも美しく、お天気に恵まれた良き1日でした。

【DAY5】ホストファミリーと 2019-08-03

今日は生徒たちは、それぞれのホストファミリーと休日を過ごしました。

●ホストファミリーとサイクリングに行った生徒「自然いっぱいなのに海の近くでとっても気持ちよかったです。」

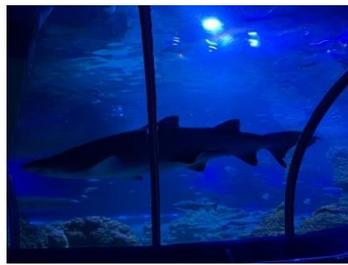
お昼ご飯には念願のミートパイ。とっても美味しかったです。」

●オーストラリアンフットボールの観戦に連れて行ってもらった生徒「とても激しいスポーツで、いつか自分もやってみたいと思いました。」(おお！)



注:この日のゲームはフリーマントルのフットボールチーム Dockers(現在リーグ 11 位)が 1 位の cats に勝った exciting なゲームでした。

●Coogee Beach(クージービーチ)に行った生徒はこんな素敵なサンセット



●水族館に連れて行ってもらった生徒



パース市内 聖ジョージ大聖堂(英国国教会)



繊細なステンドグラスが素敵



パースの図書館 広い公園がたくさん



【DAY6】ホストファミリーとの休日 2019-08-04

ホストファミリーと過ごす日曜日。それぞれに素敵な週末を送ったようです。



「午前中スイーツ巡りをしました。ピーナッツ チョコレート キャンディー ハチミツ コーヒー ... 色々なお店に行きました。午後からはハイキング。滝を見たり、パースの街全体を見渡しました。日曜日の夜はホストファミリーの友達 15 人ほどとバーベキューをしました。」

○パースの Elizabeth Quay に行った生徒
「橋を見て、フットボールをやってるドームに行って、ご飯をたべて帰ってきました。」



○ビーチに連れて行ってもらった生徒「午前中ビーチへ行き、その後、カヌーをしに行きました。雨が降ってできなかったので、周辺を散歩しました。その後、博物館へ行きました。」



○動物園に連れて行ってもらった生徒も多数。

「ショッピングモールに行って買い物をしてから、ミュージカルを見に行きました。夜は海の近くにある fish&chips を食べに行った後お店の近くの観覧車に乗って夜のフリーマントルの街を見ました。日曜日は動物園に行った後、バディのミュージカルの練習を見に行きました。」

○「朝から友達の家に行って子供達と遊びました。その後にお父さんの家に行って英語版のハリーポッターを見ました。夜にはお寿司を買ってきてくれて家で食べました。」

スワン川とサンセット。美しい。



【DAY7】雨降りの一日、海洋博物館(WA

Maritime Museum)へ 2019-08-05

2 時間の ESL の授業の後のリセスの時には、本格的な雨。やがて土砂降りに。雨でも授業時間以外は教室には入れません。



傘や屋根のあるところで立ったまま軽食を食べる姿も。

(ちなみにランチ時には、ランチ用の場所として今日だけ体育館が解放されました)

3、4 時間目にはフリーマントルの海洋博物館へ



公共のバスに乗る予定でしたが、土砂降りです。様子を見に来た教頭先生、「私が運転して送っていくよ」「全員乗れますか。」「大丈夫！」全員乗れるって・・・一体どんな車？何と、教頭先生自ら、学校のスクールバス(中型・27 人乗り)を運転して送っていただきました。

さあ、海洋博物館(WA Maritime Museum)に到着
リース先生の用意してくれたワークシート
Museum Treasure Hunt に記入しながら見学。

Something that relate to courage

Something that makes you curious

Something that made you think “wow” などなど

チームのマスコットのボクシング・カンガルー



世界でも稀少な深海ザメの「メガマウス」の標本



移民の像

横には船で渡って来た人たちの名前が刻まれている盤もあります。

国際的ヨットレース、アメリカズカップで 130 年以上勝ち続けたアメリカを初めて破ったのが、オーストラリア。その「オーストラリア 2 号」の展示も。

かつて何千人というイギリスからの移民(囚人も)が船で最初に降り立ったのがここフリーマントルの港でした。

今日の課外授業は、ツアーの一部ではなく、リース先生の計画。ありがとうございました。



【DAY7】小学校訪問・日本文化を伝えるに 2019-08-05



慌ただしくランチを食べた後は、隣接する East Fremantle Primary School(小学校)へ。6年生の日本語の授業に参加。大歓迎を受けます。

●折り紙チーム



出来上がった鶴に大喜び



●名前を漢字で書いてもらえるコーナー

大喜びで自分の名前を受け取り、上からなぞってみる小学生たち



「シュ」とか「ジェ」とかの音を漢字にするのが難しい
けん玉名人の技を見て目を丸くする小学生たち

●けん玉チーム



●浴衣体験コーナー

着せてあげています



●紙相撲チーム

オーストラリアに来て以来、学ぶばかりでしたが、今回初めて人に教える立場に。小さな達成感と伝えたいことをうまく表現できないもどかしさを感じたひと時となりました。みんなのしっかりコミュニケーションを取っている姿を頼もしく見守りました。

生徒たちはこの後、6時間目のパティリーのクラスに参加しに行きました。



【DAY8】COOKING “Bush Biscuits” 2019-08-07

1～3時間目はESL。スポーツや、一日の過ごし方についてのSPEAKING。Lise先生は日本の学生の帰宅時間や寝る時間の遅さに驚いていました。こうすれば、話題が広がるんだな、と実感できるいろんな表現を学んだ後、実際に先生とのやりとり、そして生徒同士のやりとりで、何度も繰り返し使います。

4時間目はクッキングレッスン

Wattle seed(ミモザのタネ)とマカデミアナッツ、オーツ麦を入れたクッキーです！

先生がやって見せます

イラストとともに手順をホワイトボードに書く

Home economics(家庭科)のBelinda Worrall先生。

さあ4つの班に分かれて、早速。



オープンに15分、綺麗に焼けました！



ベルンダ先生、ありがとうございました！

【DAY8】午後はバディークラス 2019-08-07

午後は毎日自分のバディーのクラスに入って授業を受けます。私は、先週は外から見守るだけだったのですが、教室は扉が閉まっていると中の様子は全くわかりません。生徒の様子を見たいと伝えると教頭先生が「じゃあ私が一緒についていくよ」と、各クラスにいそよの突撃でしたが、その場で直接交渉し、全て快く応じていただけました。

Music 9 年生



Health(保健)10 年生



Italian(イタリア語)7 年生



HASS 10 年生=Humanities and Social Sciences
地理・歴史・経済・公民が合わさった社会科



Technical Graphics 8 年生



Drama (創作劇) 9 年生



English (国語) 10 年生



Computer Studies 7 年生



Drama 10 年生



なかなか大変な中、みんなよく頑張っています。

PE(体育)9 年生
バスケットの授業でした



【DAY9】Fremantle arts centre フリーマントルアートセンターへ 2019-08-07

Lise 先生が体調が悪く欠席。代わりに Merran(メラン)先生が ESL の授業を。



入口

1、2時間目には、Fremantle Arts Centre での課外授業。(イギリス英語なのでこのスペル)

150 年前に convict(囚人)によって建てられたネオゴシック様式の建物。1860 年代最初は lunatic asylum (精神病院)として使われ→戦時中は US 海軍の作業倉庫 →博物館→そして現在のアートセンターに という変遷を経た建物。



最初に見えたのは、赤ちゃんが自由におもちゃで遊べるように用意されたお庭。



作品の一部になっている生徒



建物も塀も石灰石で作られ美しい

オープンは 10 時からだったのですが、神鈴生のために開けてくれ、中の展示も見ることができました。
コンテンポラリーアートの美術館です



特別展のテーマは
Space(宇宙)



みんながすでに作品の一部
になってる感じ。→



宇宙船?



図書館でも月の特別展が開かれていたのですが、なぜ??
そうでした、今年是人类月面着陸 1969 年 7 月 20 日の記念すべき日からちょうど 50 年!
50 years of man on moon!

【DAY9】プレゼン 2019-08-07



リセスの後の 3、4 時間目、自分が昨日くじで引いたピックに関するの 2 分のプレゼン。

- ・オーストラリアの教育システム
- ・オーストラリアの人の休日の過ごし方
- ・オーストラリアの食べ物
- ・西オーストラリアのおススメの観光スポット、、、などなど

各自、帰宅後にホストマザーやバディー、バディーの友達に話を聞いて、自分のプレゼンを準備してきました。

授業の終わりに、Chocolate bullet (弾丸チョコレート) リコリスを手

ヨコレートで薄くコーティングした弾の形のチョコレート。食べてみたけれど、慣れない食べ物にちょっと苦手感

午後の授業 oval(競技場)では、陸上の授業とサッカーの授業が。



トラックのラインも美しい芝生の上に引かれています。

生徒が走っている横でカモメが普通に何十羽も歩いている姿に自然の豊かさを感じました。

学校のバス停の後ろにある公園。芝生が青々と美しいです。

【DAY10】プレゼン後半組とクイズ、Speaking 2019-08-08

今日も午前中はムラン先生の授業です。昨日に引き続きのプレゼンの後半組の発表。

各自のピックはオーストラリアのスポーツ、動物、クリスマスなどなど。ホストマザーやバディーに教えてもらった内容を発表です。

ムラン先生のクイズ大会、10問の中で一番難しかったのは、

- ・パースからシドニーまで電車で移動するのに何日かかるでしょう。
- ・オーストラリアの首相の名前は？



答えは、、、
3日、
スコット・モリソン氏でした。

先生からみんなにオススメチョコレート

ムラン先生ありがとう😊

ジェニファー先生が途中様子を見に。“How are you?”と聞かれて “Good”と口々に答える一同。

「“Good(先生がしんどそうに言ってみせる)”だって!! 違うでしょ、“Great”(元気一杯に言う)でしょ、“Excited

“でしょ?”と、しょっぱなから威圧感半端ない。週末何をしたかと聞かれて、“I went shopping.”(買い物に行きました)、と答えた生徒には“Boring!”(つまらない答え!)と一喝。

何買ったの?「絵」どんな絵?「浜辺」どれくらいなの?「小さい」誰に買ったの?「家族」、と矢継ぎ早の質問「はい、じゃあ全部つなげて言ってみて」

I bought a smallish painting of the beach for my family.と答える生徒。

「素晴らしい!ほら、面白い答えになったじゃない。」



ホストファミリーについて、
 They are kind. と答える生徒にも質問を続け、
 →They are kind, houses are very big and the food is very nice...へと変わりました。
 日本の生徒は最小限で答えようとするからね、5個質問した答えがちょうどいい、と。
 「前回私の授業から 1 週間経ったけど、その後オーストラリアで気づいたことは？」
 という質問に生徒は
 I have noticed many colorful birds.(カラフルな鳥

たち)、

I have noticed the drinking age starts at 18,(飲酒は 18 歳から)

I found the rules are difficult to understand. (ルールが難しい)

他にも、飲酒運転が OK だとか、髪を毎日洗わない(逆に毎日洗うの？と驚かれました。先生は今日で 5 日目、とのこと)と、どんどんできてきます。

口ごもると、tick-tick. I'll come back. でテンポよくどんどん進みます。こういう風に喋れば会話が弾むのだとすぐ実践できるトレーニングになりました。ジェニファー先生ありがとう。

John Curtin College of Arts について 2019-08-08

John Curtin college of Art は 7 年生から 12 年生までの 12 歳から 18 歳が通う公立の学校。パースからは電車で 30 分のフリーマントルにあります。

オーストラリアの教育システムは、

プライマリースクール(小学校)Year6 まで→セカンダリースクール Year7~Year12 (義務教育は Year10)

→大学/専門学校など

オーストラリアではセカンダリースクールのことを、カレッジ、ハイスクール、セカンダリーカレッジ、シニアハイスクール、など様々な違った呼び方で呼びます。

この学校も Collage という名ですが、大学ではなく中高一貫校です。約 2000 人が入学を希望して、入学できるのは 200 人弱という狭き門。intelligent(学力にも秀でていて)、かつ gifted and talented(芸術分野に秀でた)の生徒のみが入学できます。3 分の 2 が女の子。学力試験や面接のほかに、専攻分野のオーディションはもちろん、保護者の面接も！劇や音楽をやるには保護者のサポートが不可欠なので。

映画「アバター」(Avatar)の主役を演じた Sam Worthington はここの卒業生。私が立ち止まってキョロキョロしていると、すぐに「大丈夫ですか」と誰かしらが声をかけてくれました。生徒の気質が穏やかで、いじめ問題とも無縁というのも納得。

フリーマントル駅



古い街並み



Round house への道





Round House からの眺め

【DAY11】登校ラストの日と R U OK,Mate? 2019-08-09



学校に来てみると、何やら黄色っぽい装飾が出現。ミモザの花が柱ごとに飾られ、R U OK,Mate?と書かれた旗があちこちに。今日は R U OKのキャンペーンデー。

登校してきた神鈴生も、ラバーブレスレットやバンダナをもらって身につけています。

R U OK,Mate って? R(=Are) U(=you) OK, Mate(友達)?

“Are you OK, Mate?”と周りの友達に声をかけあいましょうというキャンペーン。

心の病に對しての理解を深め、心がしんどくなっていたり、感情のコントロールができない人も隠さず話してみよう、という啓発活動。

お昼休みも少し長めでコンサートなどもありました。



【DAY11】2時間目 国語(English)の授業で異文化理解 2019-08-09

2時間目、リース先生と教頭先生がセッティングしてくれ、国語(English)の 9 年生の授業で異文化交流の取り組み。



日本とオーストラリアの暮らしにどんな違いがあるかお互いに質問をして見出そう!との指示。

一列に壁に並んだ神鈴生を、好奇心いっぱいのキラキラした目で見つめる JCCA 生。



自由に聞いていいよ、と言われた途端、、、
わっと取り囲まれました!

どんどん質問をされます。
授業後にレポートしないとイケないの
で神鈴生もしっかり質問します。





さあ、交流後、学びの振り返りです。
「何がわかりましたか」
こういう発表に慣れているのでしょう。
JCCA 生が手を挙げてどんどん発言します。



「学校のシステムが中
学校と高校に 3 年ずつ
に分かれているそうで
す」



「放課後学校のクラブがありほとんどの生徒が活動するそうです」

学校の掃除を生徒がするのを聞いて、一同が「ええーっ」と口を大きく開けていました。

お互いの国の文化に触れいい刺激になりました。

日本にいい印象を持ってもらえたと思います。皆さん、よく頑張りました。
またこのような機会を計画してくれたリース先生と教頭先生に感謝です。

【DAY11】さよなら JCCA、Farewell lunch 2019-08-09

4 時間目の最後の ESL では、音楽好きな生徒が多いので、リース先生が歌のディクテーションを。
発音が綺麗で、歌詞の内容がいいものを選んでくれました。まず Ed Sheeran の”Thinking Out loud”を。
鉛筆を持たず、聞き終わってから歌詞の穴埋め。最後には Bruno Mars の”Don’t give up”を。



「この歌詞は私からみんなへのメッセージよ、♪ 何か新しいことをしたくてもすごく難しそうにみえてやめたくなったりうんざりしても、Don’t give up. 前に進み続けて。できるから。♪ 私の可愛い美しい生徒たち、楽しかった。」

と言ってもらえました。ありがとうリース先生。

さて、その後、バディーも参加してもらって、Farewell Lunch。昼休みは 30 分しかないので、走り足で。神鈴生が
一列に並び、一人ずつ順番に、自分のバディーの名を呼び、バディーにメッセージを語りかけます。



本当にありがとう。会えてよかった。家族になってくれてありがとう。大好き。一緒に楽しい時間を過ごせた。感極まり、涙するバディーも。



神鈴生のパフォーマンスとして童謡「ふるさと」を合唱。(練習 2 回のみでしたが上出来)

生徒が日本の文化の風呂敷の説明をし、リース先生と教頭先生それぞれにみんなが書いたメッセージカードとプレゼントをくるんだ風呂敷を進呈。教頭先生からは JCCA の研修終了証明書を一人ずつに



バディーから JCCA のグッズを手渡で渡されます。その中身は、、、最新の YEAR BOOK(卒業アルバムのようなもの)、ボールペン、キーホルダー、ピンバッジ、JCCA のショー上演スケジュールカレンダー

Lise 先生、Kevin 教頭先生、バディーと共に証明書を持って

ありがとう John Curtin College of

Arts かけがえのない素晴らしい経験をさせていただきました。

【DAY12】さよならホストファミリー 2019-08-10

いよいよホストファミリーとお別れの朝

どの生徒も素晴らしいホストファミリーに恵まれました。

ホストマザー一人一人とお話をさせていただきましたが、「可愛くて、楽しくて。これからさみしくなる。」

「娘に頼まれて初めてホストファミリーをやってみたけど、本当に楽しかった。」

「日本にまた行きます。」

などなど、嬉しい言葉をたくさんいただきました。

ハグとさよならの後、バスで出発！名残惜しく手を振り合いました。



★補足

ホストファミリーの選定には、JCCAに通う生徒の中から、保護者の職業、兄弟姉妹の通学先、生徒が使う部屋が母屋から離れていないか、清潔さ、使用言語が英語であるか、などなどを家庭訪問しチェックがされました。18歳以上の同居者全員に州発行の Working with Children Check(有償無償に関わらず子どもに関わる仕事をする人が取るもので、犯罪歴やその傾向がないかなどを調べるもの)が必要でした。

【DAY12】カバシャム野生動物公園とチョコレート工場 2019-08-10

今日も晴天です。この時期パースはいつも雨が降るそうですが、滞在中、雨らしい雨が降ったのは

1日だけでした。ラッキーです。ホストファミリーに別れを告げ、向かうはパース郊外の Caversham Wildlife Park(カバシャムワイルドライフパーク)。

ガイドのトムさんの案内で、園内を周ります。まずは、コアラ舎に行き、木につかまりながら寝ているコアラを見学。「コアラがこんなに可愛いなんて😊」と何を見ても感動する生徒たち。そのあと一人ずつコアラの背中にタッチ。

次は羊の毛刈りショー牧羊犬に集めら



れる羊たち

羊一頭が仰向けにバンザイさせられ、丸刈りがあつという間に。そして、驚くべきことに、刈り



終わった後の羊毛を、ひらっと空中に投げると、一枚の絨毯のように広がりました。(全部つながっていたのです)



次はカンガルーとのふれあい広場。カンガルーがあっちにもこっちにも奈々のシカ状態。





かわいいー、かわいいーと声。餌を持っているとたくさん寄ってきます。ヘビとのふれあい。そしてウオンバットとのふれあい。クオッカやポッサムや、、、オーストラリア特有の動物たちをたくさん堪能！

途中からパースに帰省中の ALT のマットがみんなに会いに駆けつけてくれました！マットのホームでの再会は格別うれしい。ホストマザーに用意してもらったランチを食べてから、チョコレート工場へ。

日本の夏の暑さを思うとチョコを買う気がしない、、、「この旅行の記念に」とマグを買ったり、アイスクリームを食べたり。芝生で踊ったり(帰国に向けてハイテンションなみんな)。

マットに「また日本でね～」と別れを告げよいよ空港へ。

さよならオーストラリア 2019-08-12



パース空港へ到着。

2週間前にパース空港に着いて初めてお水やスナックを購入したお店の前を通り過ぎました。

レジでお金を払うのにも苦戦し、これから始まる未知の生活への不安と緊張に押しつぶされそうになっていた2週間前のみんなの姿が、遥か昔のことにように懐かしく思い出されます。

初めてのいろんな経験をし、チャレンジをし、いろんな困難を自分で乗り越え、今や異国でサバイブした自信と経験を胸に。

楽しい思い出も多いけれど、大変だったことの方が多かったのでは。

神鈴生は素晴らしく、ホストファミリーはもちろん、学校関係者、ガイドの方含め、向こうで関わった全ての方から、お褒めの言葉をいただき、可愛がってもらいました。大変、誇らしく嬉しかったです。

オーストラリアの国章(50c コインにも記載)には、国花のワトル(和名ミモザ)とカンガルーとエミュの絵が。なぜ、この2つの動物かという、、、、どちらも足の構造上前進しかできない動物。

200年ちょっと、と歴史の浅いオーストラリアが「前進あるのみ」という思いを込めているそう。

今回研修参加のみなさんも「前進あるのみ」で可能性を大きく広げていってほしいと思っています。今回の短期研修にあたりまして、ご協力とご理解をいただいた保護者の皆様ありがとうございました。最後になりましたが、今回の短期研修が最高のものになるように、影から支えてくださった多くの方々全ての皆様にごこの場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。